



福島成蹊
高等学校

特進コースREPORT

2019 年 10 月 26 日
第 7 号
福島成蹊高校広報室

五感で学ぶ！ 福島フィールドワーク

「福島フィールドワーク」は福島について自分自身の経験として学ぶことを目的としています。大学進学などで福島を離れたとしても、一人ひとりが自分の言葉で事実を伝えることで、福島の明るい未来を開いていってほしいと思います。今年度は東日本大震災とそこからの復興をテーマに活動しました。



事前学習会

9月21日(土)

9月12日(木)

「放射線について」 安藤宏先生

(環境再生プラザアドバイザー)

放射線とは何なのか、8 年前に飛び交った「シーベルト」「ベクレル」ですが、これらはどんな意味があり、どう違うのか。現実的にどのくらいの数値なら問題があり、どのくらいなら気にしなくてもよいのか、などを科学的に分かりやすく解説していただきました。



放射線の飛跡が見える実験→

9月14日(土)

「相馬の漁業の現状について」

高橋一泰先生 ・ 伊藤貴之先生

(相馬双葉漁協青壮年部) (福島県水産事務所漁業振興課)

震災後の試験操業から現在までの状況について、また、検査の仕組みなどについてお話がありました。



検査は国の 2 倍厳しい基準で行っていて問題がないとのことでした。他県に出向いてのキャンペーンのご苦労についてなどもお話いただきました。

東京電力廃炉資料館 双葉郡富岡町

東京電力により設置された、原発事故の実状と廃炉作業の状況を見ることができる資料館です。津波によって全電源が途絶えた中央制御室の様子や、事故対応に当たった所員の方々の思いなど、リアルな状況が伝わってきて、みんな神妙な面持ちで見学していました。

特定廃棄物埋立情報館

リフルンふくしま 双葉郡富岡町

環境省が設置した施設で、放射線に汚染されたごみの埋立について学ぶことができる情報館です。埋立処分の概要や現状について、触ったり、感じたり、動かしたりして体験的に学ぶことができました。実際の埋立場の見学も行いました。



バーベキュー 相馬地域開発記念緑地 (新地町)

事前学習会でお世話になった相馬双葉漁業協同組合さんから準備していただいた、相馬沖で獲れたカレイでバーベキューを行いました。肉厚で卵もたっぷり入っていたので、焼き上げるまでにはとても苦労しましたが、自分で焼いた、できたての味は格別でした。魚が苦手な生徒も「おいしい！」と歓声を上げていました。

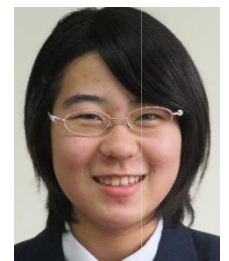


僕は小学校 1 年生まで浪江町に住んでいたのですが、今回の訪問では、バリケードが設置されていたり、営業していない店があったり、植物が生い茂っていたりと、町並みはそのころとは全然違うように見えました。バーベキューでは福島で獲れた魚を焼いて食べましたが、とてもおいしかったです。



1 年 込堂翔空さん
(宇都宮市立宝木中出身)

見学した施設では、放射線のことや廃炉現場の様子などが丁寧に展示されていて、よく理解することができました。また、バス移動の途中で被災地を通ったことで、地震や津波の被害の大きさを身近に実感することができました。これらを年月と共に風化させないように伝えることが私たちの世代であると再確認すると同時に、そのための貴重な体験ができました。



2 年 川邊有希乃さん
(福島市立岳陽中出身)

改めて、自分たちが体験した東日本大震災について学び、当時の状況についても理解することができました。被災した町並みを見ると、雑草で看板が隠れていたり、以前は洋服店だった場所が建設会社になっていたりしました。こういったことを他県の人にも知ってもらい、また、世代をこえて震災の体験を伝えていかなければならないと感じました。



3 年 浦山夏梨さん
(福島市立福島二中出身)